

出典として、以下の情報源を主に用いました。

1. 『今日のOTC薬 改訂第5版』
2. 厚生労働省：（登録販売者）試験作成に関する手引き
3. 薬事日報社：一般用医薬品使用上の注意ハンドブック改訂版

講座での図の使用は許可を取っております。ただし、使用条件を守って下さい。今井作成の図も使用可能です。

問1【受診勧奨】

公益社団法人 日本小児科学会

こどもの救急 対象年齢：生後1カ月～6歳

<http://kodomo-qq.jp/index.php>

症状	おうちで様子を見ましよう	自家用車・タクシーで病院に行く	救急車で病院に行く
発熱（38℃以上） ・熱があっても元気な場合や 38.0～38.5℃以下なら、解熱剤の使用は控えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・水分はとれる ・おしっこが出ている。 オムツがいつものとおり濡れている <ul style="list-style-type: none"> ・あやすと笑う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐったりしている ・無表情で活気がない ・1日中ウトウトしている ・生後3カ月未満である 	
けいれん・ふるえ 口にものをくわえさせてはいけません！仰向けに寝かせたら、顔を横に向け衣類をゆるめます。	<ul style="list-style-type: none"> ・てんかんという病名もしくは診断がついている。 ・けいれんかどうか、はっきりしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けいれんが5分以内でとまった。 ・生後6カ月未満である。 ・生まれて初めてのけいれんである。 ・最近頭を激しくぶつけた。 ・体温が38℃以下である ・けいれんに左右差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識が戻らない。 ・何度も、繰り返しけいれんがおこる。 ・くちびるの紫色が<u>続いている</u>。 ・けいれんが5分以上続いている。
泣き止まない チェックポイント ウンチは大丈夫？ お熱は？ どこか痛そうなどころがありますか？ お子さんが泣きやまない時、他に今まで気づかなかった症状はないか、もう一度確認してみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3日前からウンチが出ていない ・母乳やミルクを与えるときと落ち着く ・だっこしてしばらくすると、泣き止む ・おしりが赤い ・元気がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・耳をさわる。耳だれがある ・オムツを替える時、足を痛がる ・顔色が悪く、不機嫌にしている ・泣いていたのに、急に泣き止みぐったりした ・おまた（陰のう、股のつけね）がふくらんでいる ・38℃以上の発熱がある 	
意識がおかしい 痛み刺激に反応しない場合は「いつものように呼吸している」か確認して		<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物やほ乳瓶を見て飲もうとする ・あやしても笑わないが、視線は合う ・母親と視線があわない 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけると開眼して目を向ける ・呼びかけを繰り返すと辛うじて開眼する ・痛み刺激に対し、払い

<p>ください。 呼吸をしていないか、しゃくり上げるようなおかしな呼吸の場合は心肺蘇生が必要です。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・あやすと笑うが、何となくぼやっとしている 	<p>のける動作をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛み刺激に反応しない ・痛み刺激に対し、少し手足を動かしたり顔をしかめたりする
<p>頭痛</p> <p>頭痛薬を飲ませないで受診しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・鼻づまりがひどい 	<ul style="list-style-type: none"> ・38℃以上の発熱がある ・何回も吐く ・元気がない ・顔色がだんだんと悪くなる ・頭を激しくぶつけた 	<ul style="list-style-type: none"> ・けいれん（ひきつけ）がある ・意識がおかしい
<p>頭を強くぶつけた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなたんこぶができた ・すぐに泣いて、他の症状がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・何回も吐く ・打った部分がへこんでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん反応が弱くなる ・意識がない ・けいれんがある ・出血が止まらない ・手足が動かない
<p>せき・ゼエゼエする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・鼻水が出ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼエゼエしていて呼吸が苦しそう ・気管支が弱い、喘息と言われたことがある ・胸がへこむ呼吸をしている ・38℃以上の発熱がある ・顔色が悪く、不機嫌そうにしている ・突然ゼエゼエし始めた ・おしっこが少ない。オムツが濡れても軽い ・顔色はよく、くちびるも赤い ・元気がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけても反応がない ・声がかすれてほとんど聞こえない。話ができない ・くちびるの色が紫色をしている
<p>おしっこが出ない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱がある ・吐いたり下痢をしたりする ・くちびるが乾燥している ・水分をほとんど取れない 	
<p>皮膚のブツブツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬を飲んで発疹が出てきた ・小さな水ぶくれがポチポチと出てきた ・舌にイチゴのようなザラザラがある ・目とくちびるが真っ赤だ ・熱が長引き、皮膚のブツブツがではじめた ・もりあがったリング状の発疹が出てきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・目ヤニやせきがひどく、元気がない ・息苦しく、声がかすれてきた ・暗い紫色の小さな点々が、足のひざから下に出ている ・顔やくちびるが、はれぼったい ・関節やおまた（陰のう、股のつけね）をいたがる 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・リンゴのような赤いほっぺたになった ・かゆみがある ・皮膚のブツブツに、膿や汁がある 		
吐き気	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある。機嫌は悪くない ・おしっこがでている。オムツがいつも通りぬれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・がまんできないほどの激しいおなかの痛みを訴える ・生後3カ月未満である ・無表情でウトウトしている ・吐いたものがコーヒーの残りかすのようだ ・頭を激しく痛がる ・何度も繰り返し吐く ・くちびるが乾いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウンチに血が混じった ・血、もしくは胆汁（緑色の液体）を吐いた
腹痛・便秘	<ul style="list-style-type: none"> ・ウンチをしたら痛みがやわらいだ ・おへその周りを痛がる ・腹痛が2~3日続いている ・数日ウンチが出ていない ・ウンチの「表面」に血がつく、もしくはティッシュに血がつく ・おなかの風邪が周囲ではやっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・おまた（陰のう、股のつけね）を痛がる ・おなかをさわると嫌がる ・おなかがパンパンにふくらんでいる ・コーヒーの残りかすのようなものを吐いた ・おなかを激しくぶつけた ・ウンチの「中」に血が混じっている 	
ウンチが変	<ul style="list-style-type: none"> ・ウンチをした後に、便器に血液がついている ・元気がある ・肛門を痛がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリの佃煮のような黒くて粘っこいウンチ ・クリーム色の下痢便 ・機嫌が悪く、おなかも痛そうだ ・イチゴジャムみたいなウンチ ・真っ赤な血液がウンチの中まで混ざりあっている ・38℃以上の発熱がある 	
下痢	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がある ・水分はとれている ・おしっこがでている。オムツがいつもどおり濡れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・38℃以上の発熱がある ・ぐったりしている ・目がくぼんでいる ・血便になっている ・くちびるや口の中が乾燥している ・何度も吐く ・生後3カ月未満である 	

問1作成にあたっての整理案（全葉協今井による）

意識がおかしい（「てんかん」と診断されていない痙攣（いわゆる「ひきつけ」を除く）を含む）、麻痺がみられる、ぐったりしている、元気が無い、顔色が悪い（唇の色が暗赤色や紫色）、38℃以上の発熱があって生

後3カ月未満または他にも症状がある、ゼエゼエして呼吸が苦しそう（ぜんそく、誤飲、脱水）などの場合は受診。

- ・腸閉塞
- ・脱水症
- ・脱腸
- ・便の色がおかしい（海苔の佃煮（タール便、胃・十二指腸潰瘍など上部消化管）、イチゴジャム（粘血便、炎症部位）、クリーム（胆道閉塞、ロタウイルスなど）、便中に赤（メッケル憩室、大腸ポリープ））
- ・前触れなく便に血？が混じっている。
- ・吐いたものがコーヒーの残りがすのようだ
- ・発熱して発疹
- ・耳をさわって泣きやまない

参考：新生児メレナ、

(1)

① 腸閉塞

ONHK『きょうの健康大百科』“腸閉塞”

耐えられない腹痛にご用心！腸閉塞

症状は？

▼断続的な鋭い腹痛が特徴

腸閉塞は突然発症することが多く、激しい腹痛、吐き気と嘔吐、おなかの張り（膨満）、ガスや便が出ないなどの症状が現れます。

腸閉塞の腹痛は、「きりきりと鋭い痛みが起こり、少したつと和らぐ」という状態を繰り返すのが特徴です。比較的ゆっくりと進行し、痛みはしだいに強まります。

▼激痛が持続するとき

急に始まった激しい腹痛が治まらずに持続する場合は、腸に「血行障害」が起こっているおそれがあるので、迅速な処置が必要です。時間の経過とともに、発熱や頻脈などの全身症状も現れます。

▼食べた物が腸に停滞

食べ物は口から入り、食道、胃、小腸、大腸を通過して消化・吸収され、不要物は肛門から便として排泄されます。

腸管（小腸、大腸）では飲食物から水分や栄養が吸収されますが、このとき、胆汁や膵液などの消化液からも多くの水分や電解質が再吸収されています。

何らかの理由で、腸管を内容物（飲食物、消化液、ガスなど）がうまく通過できなくなった状態が、腸閉塞です。

▼こうなると怖い

腸閉塞により水分と電解質の再吸収が不十分になると、脱水や電解質異常から不整脈が起こることがあります。また、腸管内で有害な細菌が増え、血液中に入って敗血症に至ることもあります。さらに、拡張した腸管が横隔膜を押し上げて呼吸機能が低下したり、腹部の血管の圧迫によって心臓や腎臓の機能が低下したりすることもあります。

血行障害は、停滞した内容物によって腸管が拡張して内圧が上がり、腸管内の血管が周囲の組織に押しつけられて起こります。

これは、腸管が壊死して命にかかわるおそれのある危険な状態です。そのため、腸閉塞が起きたら早期に受診することが必要です。

MSD マニュアル家庭版 腸閉塞

<https://www.msmanuals.com/ja->

[jp/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/03-%E6%B6%88%E5%8C%96%E5%99%A8%E3%81%AE%E7%97%85%E6%B0%97/%E6%B6%88%E5%8C%96%E7%AE%A1%E3%81%AE%E6%95%91%E6%80%A5%E7%96%BE%E6%82%A3/%E8%85%B8%E9%96%89%E5%A1%9E](https://www.msmanuals.com/ja-jp/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/03-%E6%B6%88%E5%8C%96%E5%99%A8%E3%81%AE%E7%97%85%E6%B0%97/%E6%B6%88%E5%8C%96%E7%AE%A1%E3%81%AE%E6%95%91%E6%80%A5%E7%96%BE%E6%82%A3/%E8%85%B8%E9%96%89%E5%A1%9E)

原因

腸閉塞の原因は、年齢や閉塞の場所によって異なります。

新生児や乳児では、先天異常や腸内容物の硬いかたまり（胎便 [たいべん]）、腸のねじれ（腸捻転 [ねんてん]）、腸の狭小化や一部欠損（腸閉鎖）、または腸の一部が別の部分へ入れ子状にはまりこむ異常（腸重積）が原因で腸閉塞が起こるのが一般的です。

（省略）

絞扼（こうやく）

腸の閉塞によって腸への血流が絶たれれば、絞扼と呼ばれる状態になります。絞扼は小腸閉塞患者の 25% 近くに発生します。絞扼は通常、腸の一部が異常な開口部に挟まった状態（絞扼性ヘルニア）、腸捻転、または腸重積が原因で起こります。わずか 6 時間で腸に壊疽（えそ）が生じます。壊疽が生じると腸壁が壊死し、それによって通常は腸が破裂し、腹膜炎やショックに、さらに治療しなければ死に至ります。

腸の絞扼の原因

腸の絞扼（腸への血流が絶たれた状態）は、通常は 3 つの原因（絞扼性ヘルニア、腸捻転、腸重積）のいずれかにより起こります。

症状

腸閉塞の症状として通常はけいれん性の腹痛がみられ、腹部膨満と食欲不振を伴います。痛みは波のように強弱を繰り返すような傾向があり、やがて持続した痛みとなります。嘔吐は小腸閉塞でよくみられますが、大腸閉塞ではあまり多くなく、すぐには起きません。

腸が完全に閉塞すると重度の便秘が起こりますが、部分的な閉塞であれば下痢が起こります。

絞扼が生じると、痛みがひどくなり絶え間なく生じることがあります。発熱がよくみられ、特に腸壁が破れると熱が出る可能性が高くなります。

腸捻転では、痛みは多くの場合、突然始まります。痛みは持続性で、波のように強弱を繰り返すこともあります。

一般社団法人日本小児外科学会 ホームページ

小児外科で治療する病気 腸閉塞

http://www.jsps.or.jp/archives/sick_type/tyou-heisoku

腸閉塞は、腸管の通過がなんらかの原因により障害された状態で、小児でも多くの原因で発生します。生後すぐに腸閉塞を来す疾患は、表 1 に示すような疾患があります。機械的閉塞は、腸管の内腔がつながっていなかったり狭くなっていたりすることにより通過障害が発生する場合で、機能的閉塞とは腸管の管腔はしっかりできているのに腸がうまく動かないために閉塞が発生する病気です。ヒルシュスプルング病がその典型ですが、多くの類似疾患があります。全身性の病気でも腸管運動が障害され閉塞症状が出現することがあります。先天性の腸閉塞は、出生前に診断される場合が増えています。腸閉塞の症状としては、お腹が膨れる、繰り返す嘔吐、腹痛が主なものですが、下血を伴うこともあります。また、これら病気では、高度な脱水症状となるため、点滴を行い、適切な治療が必要となります。

生直後以降に発生する腸閉塞には表2のような疾患があります。年齢により発生する疾患の頻度が異なりますが、壊死性腸炎は低出生体重児に特徴的で、ミルクを開始してしばらくして発生します。肥厚性幽門狭窄症は生後1か月前後に発生します。腸重積は、生後半年から2歳頃までの間で季節の変わり目に多く発生します。腸回転異常・中腸軸捻転は、新生児期以降に発生するものが2割で、年長児の反復性嘔吐の原因となります。メッケル憩室は、胎生期の腸管の遺残で、腸閉塞の他に消化管出血の原因となります。腸管重複症は、腸重積の原因となることがあります。その他に、以前にお腹の中の手術をしているときは、5%ぐらいの頻度で術後に腸閉塞が発生します。巨大水腎症や腹部悪性腫瘍も、巨大な場合は腸管を圧迫し腸閉塞を来します。

また、小児の腸閉塞の主症状は嘔吐ですが、嘔吐を来す腸閉塞以外の多くの疾患があり、区別が必要です。胃食道逆流症は、胃内のミルクが胃と食道の逆流防止機構が不完全で食道に上がってくる病気で、乳児期には非常に頻度が高く、ミルクアレルギーも小児嘔吐のかくれた原因として注意が必要です。

腸閉塞において大切なことは、腸閉塞を起こしている腸管が血行障害を起こしているか否かによって治療方針が異なるということです。腸回転異常・中腸軸捻転では、腸管を助けるために早期診断、早期治療が必要です。血行障害を伴う場合は、症状は重篤で、非常につよい腹痛を来します。下血も血行障害を考えさせる所見として重要です。血行障害を起こしていることが強く疑われれば、緊急手術が必要になります。

血行障害を伴わない腸閉塞では、脱水補正目的の輸液、腸管蠕動を止めるお薬の投与や、鼻から小腸までチューブを挿入留置して小腸内の減圧をおこなう方法でまず治療します。5日から1週間経過しても腸閉塞の改善が認められない場合には手術による治療を考慮しなければなりません。

表 1: 生直後に腸閉塞を来す疾患		表 2. 生直後以降に発生する腸閉塞	
機械的閉塞		消化器疾患	壊死性腸炎 肥厚性幽門狭窄症 腸重積 腸回転異常・中腸軸捻転 メッケル憩室 腸管重複症
先天性腸閉鎖・狭窄	先天性食道閉鎖 先天性十二指腸閉鎖・狭窄 先天性小腸閉鎖・狭窄		
直腸・肛門形成異常	直腸肛門奇形		
機能的閉塞			
大腸運動機能異常	ヒルシュスプルング病 ヒルシュスプルング病類縁疾患 (腸管の神経節細胞は存在するが、腸管の動きがヒルシュスプルング病のように悪い疾患群)	腹部手術既往	術後イレウス
その他		泌尿器疾患	巨大水腎症
全身性疾患	周産期胎児循環異常	腹部悪性腫瘍	神経芽腫、腎芽腫
	低出生体重児	嘔吐を来す疾患	胃食道逆流症 : GER(Gastro-Esophageal Reflux) 食道裂孔ヘルニア 胃軸捻転症 Upside down stomach ミルクアレルギー
	敗血症		
	甲状腺機能低下症		